

【認知方略】から学力向上を試みる！
—【教えて考えさせる授業】の実践研究を通じた【授業改革】—

金沢市立犀川小学校

1 事例の概要

(1) 研究主題

【教えて考えさせる授業】の実践研究を通じた【授業改革】

(2) 研究主題設定の理由

児童の実態による『学校評価：内部評価及び外部評価』から課題として次の4点を挙げた。

- ・学習に取り組む姿勢や問題解決への主体性
- ・学力テストの結果から基礎学力の定着
- ・学校評価の結果から基本的な生活習慣の定着と家庭・地域との連携
- ・指導上共通理解し、配慮を要する児童への指導法

これらの課題に対する対応策として、まず、授業を通しての学力向上・児童の学習意欲・知的好奇心を掘り起こしたいと考え、上記の研究主題を設定する。

(3) 研究のねらい

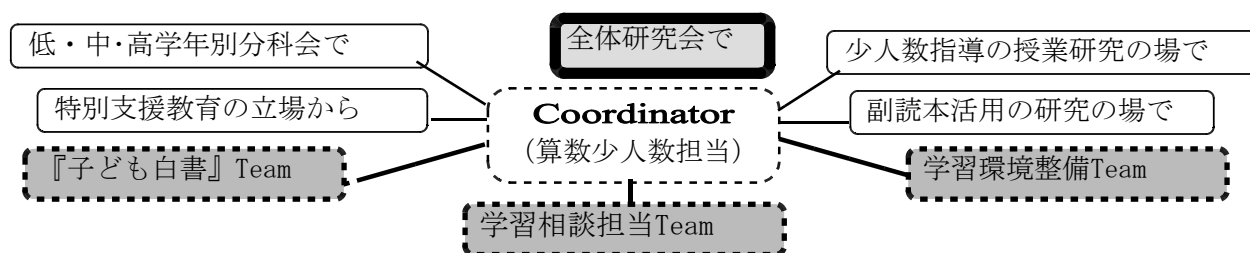
- ① 児童に算数・数学の身につけたい力に気づかせ、習得させていくための指導方法を探る。
 - ア 『教えて考えさせる授業』を追究することで、教材研究と授業改善に取り組む。
 - イ 『学習相談』の充実を通して、個に対応した指導と児童の自律した学習方法の確立を図る。
- ② 児童への指導研究を通して、教師の指導力向上をめざす。

(4) 研究の重点内容

- ① 算数科の教材研究・授業研究を通して、『教えて、考えさせる授業』の実践的研究
 - ア 『何を教えるか』を整理する。→ 教材分析による教材研究を各種の形態研究で
 - イ 『何を考えさせるか』を整理する。→ 『理解のモニター』と教材分析で
- ② 『学習相談』を通して、個々の『理解のモニター』結果から『集団指導』を展開する。
 - ア さまざまな『理解のモニター』を繰り返し、還元することで『学習の自律』を促す。

(5) 研究方法

- * 授業研究会を通して（年間一人2回実施）
- * 理論・事例報告研究会を通して



犀川っ子の実態把握に努め、そのデータをまとめる。自己評価の観点も加える。

問題解決的な学習における『リソース』となりうる『知識』を提供する環境作り

- * 『学習相談』記録や自己評価記録等からの分析
- * 犀川っ子『子ども白書』のデータから
- * 学校自己評価結果から

A-1 校内研修計画

2 実践の内容

(1) 研究の基本的な考え方

学力向上等を目標とする際に常に問題になるのが学習意欲の低下である。本校でも、学習意欲、目標設定力、知的好奇心が課題となっている。この課題を解決していくことが授業の質を高め、学力向上につながると考えている。

授業において、「……がわからない。」という学習者や「どこがわからないかわからない。」と言った学習者に“自己診断”で「どこが、何が、わからないのか」を表現させることや、最終的に「なぜ解けなかったのか」という教訓を引き出すこと、学習の自律を促すことをめざす。これらのステップは、東京大学市川伸一教授(認知心理学)の学習理論を基に『認知カウンセリング』の手法を授業改善に活かし、自己評価の確立をめざすことによって、学習者の自立を促し授業改善・指導方法の改善を課すことができたかと考えている。

(2) 研究(授業改革)の重点内容

	児 童	教 師
1	・スキル(学習スキル)の習得	・何を教え、何を考えるかの教材研究
2	・考える手順を記録する→ノートの充実	・今自分のいる位置・何をすべきかの意識化
3	・表現力を磨く	・協同学習の充実 ⇔ 表現力を育てる
4	・自己評価力を身につける	・自己評価力 ⇔ 学習相談の充実
5	・家庭学習の充実	・学習環境の整備

3 指導の実際

B-1 指導案

B-2 アンケートのまとめから

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 授業の中で、<何を考えさせるか>を考えることで、教材の解釈及び、ポイントを明確にできるように、また、大切にできるようになった。→ 個々の児童の基本事項の理解が不十分なまま『教えずに考えさせる問題解決的な学習』が行われてきたのではないかとという反省に立ち、基盤となる事項の整理を行い『教える』内容の確実な理解の上に立ち、スタートラインのそろった『問題解決的な学習』の充実を試みてきた結果、児童の学習意欲を高める手ごたえを感じている。
- ② 授業の中で、<考えさせるためには、何を教えるべきか>を吟味することで、教材の解釈及び、ポイントを明確にできるように、また、<教え方>を追究することができるようになった。→ 単に用語を教えたり、理念なく『教え込み』の指導があったりしたのではないかとという反省に立ち、『教える』内容と方法の研究を行うことで、わかりやすい授業を追求している。
- ③ 授業の中で<考えさせる>ために必要な、<内的リソース(知識内容)>と<外的リソース(道具や方法)>を吟味し、構造的に授業を捉えるようになった。
- ④ 児童個々の<理解度モニター>をいろいろな場面で行うことの大切さを認識し、また、その結果を次の指導に生かすことができるようになった。<授業の中の形成的評価・授業後の自己評価>→『教えて考えさせる授業』は教科書の内容を全員が理解できること、その内容を『問題解決的な学習』において、さらに深く理解することが目標である。その過程における細かな児童の理解度の把握が課題であり、様々な把握方法があることを認識できるようになった。
- ⑤ 学習相談で、個々の児童の理解から、学習を作り上げる姿勢と方向性を持つことができた。
- ⑥ 児童や保護者の学習に対する姿勢や構えが生活態度にも表れ、県学力調査において、実績を上げることができた。(学校自己評価の結果や、県の学力調査の通過率が向上した。)

(2) 課題

- ① 児童の実態(理解度)と教材の解釈から<問題解決的な学習での価値ある課題>を作り上げること。
- ② 学習スキルを徹底させる試みは効果をあげているが、段階ごとに徹底させる方法が課題。